

崇徳会研究・研修センター便り第 4 号「研究を通して得られた経験」

2025 年 5 月 23 日

田宮病院 診療部 医師 渡邊 穰

僕は初期研修として、長岡中央総合病院に勤めておりましたが、研修終了時には、何かしら発表せねばならないイベントがあったんです。そこでの発表テーマは「当院の糖尿病 教育入院患者を対象にしたクラスター分析」というもので、簡単にいうと、糖尿病を 1 型、2 型に分けるのではなく、新たに 5 つの分類に分けることができるというものです。どんな意義があるかという、タイプによって合併症発生率が違うんです。詳しくは個人的に聞いてください。

僕自身、研究とか統計に詳しいわけではありませんし、この研究自体も、国内では福島県立医科大学くらいしかやっていなかったんで、当時の上級医からも「本当にそのテーマでやるのか」と少し反対気味にいわれました。それでも、勢いでやってみようと思いました。今の時代は Chat GPT があるので、なんとかなるんじゃないかと思っていたわけです。なんとか試行錯誤しながら、形にすることができて、発表も終わりました。すると、上級医の先生から、「来年、新潟で学会があるからこのテーマで発表しないか」と言われました。「来年から精神科で勤めるんだけどな」と内心思いながら、これも経験だと思い、令和 6 年 10 月 14 日に日本農村医学会で発表することになりました。学会、そして発表という場を経験することができ、そして、医中誌 web という論文検索サイトにも、検索をすれば自分の名前がヒットするようになり、自己肯定感が上がりました。

その後、当院で仕事に勤しんでいたのですが、突如、PHS に外線がかかってきて、長岡中央総合病院からですといわれ、電話にでると、「今度、長岡で Diabetes Conference やるから、一般講演しないか」と上級医からの連絡でした。これも、もちろん快諾し、令和 7 年 2 月 21 日にパストラル長岡で講演することになりました。そして、この時、一緒に講演なさったのが、僕の研究テーマの大元である、福島県立医科大学の糖尿病内分泌代謝内科教授、島袋充生 先生だったのです。もちろん、僕の発表とは比較にならないほど素晴らしいものでした。発表が終わった後は、教授と上級医とともに食事もさせてもらい、とてもいい経験となりました。僕の場合は、研究の内容もちろん勉強になりましたが、それ以上に、学会での発表や、教授との出会いなど、そういう経験は研究なしでは得られなかったなあ、と思います。